

ライフ相模大野駅前店 vs スーパー三和、小田急OX相模大野店 ガチンコ対決 惣菜編&日配編

城取フードサービス研究所
城取 博幸

惣菜部門

小田急相模大野駅前、ライフ相模大野駅前店がオープンした。競合状況は、駅中に「小田急OX」、駅の反対側には「三和」がある。小田急OXは、駅の改札の正面という好立地で電車の乗降客をしっかりと掴んでいる。三和はライフとは反対側の路面店で、昔からの固定客をしっかりと確保している感じだ。ライフは駅前ではあるが食品売場は、駅を降りれば、歩道橋から1階下にさがらなければならないという少し不利な立地である。

インスタ加工重視だが、売場の商品が希薄

「ワイン&チーズ、サラダ」を強化したレイアウト。第3コーナーには、ワイン、加工肉、チーズ、サラダをまとめて陳列しているのが特徴。

惣菜のレイアウトは、第3コーナーの付きあたりのマグネット売場に、寿司、おにぎり、おこわ、涼味麺などの米飯を配置。弁当は平台に陳列されている。壁面には、「お好み焼き」「焼きそば」のコーナーも設けている。さらに先に進めば、揚物のバラ、焼魚、煮魚、揚物、中華のパック商品売場へと続く。

「インスタ比率を高めたが、商品が間に合っていない。」印象を受けた。

以前のライフの弁当売場は、アウトパックの弁当にインスタの丼の印象であったが、この店はインスタ製造の弁当、丼を強化している。11時30分頃に店を訪れたが、平台に陳列されていた弁当、丼の陳列数は約70パック程であった。お好み焼き、焼きそばはバックヤードには盛り付けられた商品があるもののまだ売場に出ていない状況。揚げ物のパックもまだ三分の二ほどしか売場が埋まっていない。勿論、まだパートさんが慣れていないことがその理由だが。

気になったことを2点ほど挙げておけば、揚物バラとパックの陳列場所が離れているのが気になる。バラの隣に揚物のパックを陳列した方が買いやすいように思える。二つ目は、寿司の陳列ケースと、調理麺、おにぎりのケースの間に仕切りがないこと。寿司は15℃以下設定、調理麺は10℃以下設定であるならば、陳列ケースに仕切りを付けるべきである。

三和 午後1時以降でも、米飯は100パック以上品揃え

三和の惣菜売場も第3コーナーにレイアウトされている。弁当類はその前の平台に大陳されている。昼のピークを過ぎても米飯の陳列量は多い。アウトパック商品、インスタ製造商品をうまく組み合わせて売場づくりを行っている。

「北海道 豚丼」420円、「名古屋 みそかつ丼」380円、「信州 ソースカツ丼」380円など、御当地丼の特集を行っていた。「北海道 豚丼」はセンター加工商品であったが、お客が買って電子レンジに入れれば、インスタ製造であろうと、アウトパックであろうと関係ないように思われる。

余談になるかもしれないが、最近の西友の弁当売場を見れば分かると思うが、弁当の陳列量の多さが半端ではない。朝からぎっしりと山積みされていて迫力がある。コンビニ商品にすっかり慣れたお客は「電子レンジに入れれば、インスタもアウトパックも同じ」感覚であるように思う。

価格調査では、三和の価格が安く設定されている。

小田急OX 駅中だけあって高単価商品を品揃え。

小田急OXは駅中の最高の立地で、昼、夕方の乗降客をしっかりと確保している。デパートをイメージさせる店で、価格は少し高めであるが幅広い客層を集めている感じだ。寿司は鮮魚コーナーの冷蔵平ケースで展開。生ネタを使った商品で差別化を図っている。米飯売場壁面には、有名ブランドの「たいめいけん」「まいせん」「なだまん」「和匠」などのサンドイッチや米飯が並ぶ。アウトパックは有名ブランド、インスタは大衆品の製造と使い分けている感じだ。平台には夕方に向けてインスタ弁当や丼もしっかり製造している。午後3時以降に店を見たが、100パック以上の米飯が陳列されている。揚物も平台1台を確保してパック商品を中心にけっこう品揃えしている。夕方の需要が多いのが予想できる。

惣菜部門の主力アイテムの価格比較分析

三和は、他に2店をしっかりと価格調査しているのか、惣菜の主力商品の価格は2店を下回っている。価格の安さ順位は三和、ライフ、小田急OXの順だ。三和は価格は安くても品質を落としている訳ではない。

惣菜部門総括

ライフの新店は、ヤオコーの的場店を意識したような売場で、「ワインとチーズ、つまみ、サラダ」を強化した売場だが、新店であればヤオコー以上に客が「ワット」驚くような「やり過ぎ感」のある売場を作って欲しかった。インスタ製造のお好み焼きや焼きそばの売場も新設したようだ。しかし、売場、商品は

マネできても、まだ慣れていないことからオペレーションが混乱しているように思われる。

三和は昔からの客をしっかり掴み、惣菜でも比較的低価格で買やすい。アウトパックとインストパックをうまく組み合わせて売場にボリュームがある。

小田急O×は、駅中立地で上から下まで幅広い品揃えをしている。その中で、ライフの新店は、お客が足を運んでくれるためにどう存在価値を出すのかが課題だ。

気になった商品を購入

ライフの惣菜商品



写真は大型パックを使って下さい

「厚切りベーコンチーズ」1パック 398円

厚切りベーコンの上にチーズを載せてオーブンで焼いたもの。オープンセールから継続して販売している商品。ベーコンのボリュームがありチーズとの相性もよい。1枚398円は値頃である。



「鶏おこわ」1パック 298円

ごぼうが入ったおこわの上に、ローストされた鶏肉がたっぷりとトッピングされている商品。1パック298円も値頃価格。昼に売場に出されていた商品が午後

には完全に売り切れていった。

三和の惣菜商品



「豚丼 (ロース)」1パック 420 円

ごはんの上に焼かれた豚ロース肉がたっぷり 2 枚も載せられている。ごはんが足りなくなるほどの肉のボリューム。アウトパック商品の割には肉は柔らかく満足感がある商品。



「手延べそうめん」1パック 298 円

「島原手延べそうめん使用」「かけ水」を麺にかけてほぐして食べる。麺もしっかりしている。つけ汁も上品な味である。そうめんを販売していたのはこの店のみであった。

小田急OXの惣菜商品



「ノンオイルのお弁当」1パック 600円

「調理に油を使用していません」という珍しい商品。二段弁当で、下には鶏ごはん、上には、若鶏の西京漬け、切り昆布の煮もの、蒸し野菜などが入っている。確かに油を使っていないため、あっさりと食べられる。

惣菜の主力商品の最低価格

	ライフ 相模大野駅前店	サンワ 相模大野店	小田急OX 相模大野店
コロッケ	1個 100円	1個 105円	1個 130円
豚ロースとんかつ	1枚 360円	1枚 298円 2枚 580円	1枚 380円
野菜かき揚げ	1枚 168円 海老	1枚 158円 海老	1枚 130円
鶏唐揚げ（最低価格）	1パック 250円 100g 188円	1パック 153円 100g 158円	1パック 190円 100g 238円
おにぎり	1個 100円	1個 98円	1個 105円
弁当	1パック 398円	1パック 398円	1パック 399円
いなり寿司	2個入り 128円	3個入り 150円	3個入り 180円
にぎり寿司	11カン 498円	7カン+細巻き4カン 450円	8カン 780円
冷し中華 （アウトパック）	1パック 298円	1パック 298円	1パック 298円
ポテトサラダ 小	1パック 128円	1パック 99円	1パック 158円
ひじき煮 小	1パック 128円	1パック 99円	1パック 138円

日配部門

各店和日配を入口の青果売場付近に配置、洋日配を第3コーナー、パンを最終コーナーに配置しているレイアウトは同じである。コーナー取りや品揃えに関しては、コレという大きな違いは見られなかった。その中で、各社どこで強みを出すかについては、ライフの「有名メーカー商品」、三和の「パンと乳製品」「淡路島ブランド」、小田急OXの「高品質商品」「レディ・ミールコーナー」の品揃えが印象的であった。

ライフ

和日配のこだわり品、洋日配のワイン関連の品揃えが目立つ

ライフの日配品売場のレイアウトは、入口の青果売場の近くに、和日配を配置。第三コーナーのワイン売場の近くに加工肉、チーズ、サラダをまとめて陳列している。惣菜の前に日配の冷蔵平ケース、洋日配の牛乳、飲料、チルドデザート、チルドデザート、パン、和洋生菓子と続いている。冷凍食品、アイスクリームは中通路に配置。ヤオコー的場店の「ワインとチーズ、パン」をイメージさせる店舗だ。それを意識してか漬物コーナーの「ピクルス」を品揃えしている。

和日配は、「丹沢大山五左衛門豆腐」「久米吉のこんにゃく」「かじのやの納豆」「小田原かまぼこ」などのブランドを揃えている。洋日配は、「ドルチェ・ガーデン」の冷蔵洋生菓子をコーナー化している。105円のバイクドチーズなども品揃えしている。

ライフの日配品売場で気になった点は、「キムチコーナー」と「飲料コーナー」だ。キムチコーナーの隣の上段に韓国料理の鍋スープなどを品揃えしているが目立たない。同じく、飲料コーナーの最上段に「アサイー」や「ザクロ」などの輸入品の健康飲料を品揃えしているがこれもせっかく品揃えしても、上段では目立たない。縦割にしなくとも露出して単品訴求をして欲しかった。

三和の「パンコーナー、乳製品」「佃煮コーナー」と「淡路島ブランド」は見事三和の日配品は、青果売場近くが和日配売場で、昆布、魚介佃煮コーナーからスタートしている。エンド部分のサイド陳列では、今シーズンの「淡路島沖のいかなご佃煮」が段ボールで大陳されている。価格は158円と魚介佃煮としてはかなり安い。

さらに、反対側の入口は、「パンコーナー」で、そのエンドには、普通はあまり特売に入れないような、「レーズンパン6枚入り」、「ライ麦パン6枚入り」が138円の特売になっている。3枚入りは98円で統一されている。それだけ、「健

康パン」が売れている証拠だ。また、フランスパンなどの「パン・トラディショナル」の品揃えが良い。パンに関連した乳製品のコーナーもバターの品揃えが豊富だ。三和の日配品はとにかく品揃えが豊富だ。アイスのコーナーには、「ホテル用2ℓアイスクリーム」まで品揃えされている。

さらに、牛乳、プリン、いかなごなどの「淡路島ブランド」は独自に産地開発を行っている。

小田急OXの「涼味コーナー」と「レディ・ミールコーナー」

和日配はところ天、刺身こんにやく、もずくなどの「涼味食品」をフェイスを広げて展開している。コンコース第3コーナーを過ぎた所に、ピザとレディ・ミールを集めたコーナーがある。ピザが3尺、レンジ・アップ商品3尺の売場だ。今売れているピザのアイテムを広げて6尺にするのが普通だが、スープやイタリアンメニューも集めた「イタリアンコーナー」になっている。これからは、単品商品ではなく「世界の料理コーナー」が拡大される。

漬け物コーナーには、岩下のピクルスが4種類178円で販売。「タルタルソース用 刻みピクルス」など珍しい商品も品揃えしている。

また、乳製品コーナーのケース上段には、「ニュージーランド産のガーリックマーガリン」が陳列され、在庫は最後の1個となっていた。この商品の特徴は、「TRANS FAT FREE」、すなわちトランス脂肪酸を使用していない「ファットスプレッド」である。トランス脂肪酸を気にする人もいたため、国内メーカーで揃わなければ輸入すればよいだけのこと。日本にないものは海外からどンドン輸入して商品の差別化を図ることも必要。

日配部門の主力アイテムの価格比較分析

主要商品の価格比較表を見ても分かる通り、主力日配商品の価格は三和が一番安い価格設定である。よく競合店の価格を調査している。次にライフ、小田急OXの順になっている。三和は主力商品の地域下限を押さえつつ、絞り込みを行わず品揃えも豊富であるのが特徴。小田急OXはデパートに似た品揃えでSMの品揃えとは少し違う。ライフは「価格」で戦うのか「品質」「品揃え」で戦うのか今後を見守りたい。

日配部門の総括

相模大野駅前には、ライフが新たに出店して注目されている地域。その中で、売場の特徴を出すのは、「商品開発」と「ラインロビング」である。客が「ワァ」と驚くようなコーナー、商品を「やり過ぎかな」と思うくらいが客に強い印象を与える。その点では、三和の日配品売場が印象的であった。

気になった商品

ライフ



「ワインびくるす」1パック 258 円

漬物コーナーのピクルス。季節のたけのこやセロリー、キュウリ、ニンジン、大根、パプリカなどが色どりよく入っている。酢の味はマイルド。今後、漬けものコーナーのピクルスは有望。



「ビビゴ 鍋スープシリーズ」1袋 228 円

エバラと韓国CJのダブルチョップの本場韓国の鍋、汁物スープ。「スンドゥブチゲ（豆腐）」「テンジャンチゲ（韓国味噌）」「チョングツチャンチゲ（韓国納豆）」「プデチゲ（ソーセージ）」 ピリ辛夏鍋としてももう少し露出して売り込みたい商品。



「アサイーエナジー（紙）」1本 238円 「アサイー（ポリ）」1本 298円
 「アサイーエナジー+」1本 298円 「ZAK（ポリ ザクロ）」

アサイーはアマゾン産のヤシ科のくだもの。最近、日本でもジュースで販売されている。ZAKはザクロジュースの定番。健康をPOP等で訴求して露出して販売してほしい。



「冷凍 カツの卵とじ」(株) フードテック 1パック 268円

トップシールトレーの冷凍レディ・ミール商品。袋入り中心の冷凍食品の中で、トップシールの商品は珍しい。煮物、和え物も 2品入り、薄味で手づくり感がある。さらなる、商品開発を期待したい。

三和



「いかなご生姜煮」100g1パック 158円

サイド陳列で大陳されていた商品。「淡路島沖獲れ」のいかなごのクギ煮。腹割れ、曲がりも、苦味もない商品。サイズは少し大きめだが、時期のもので100g 158円の価格は安い。



「淡路島プリン」3連1パック 158円 「淡路島牛乳」1ℓ 228円

同じ淡路島シリーズのプリンと牛乳。産直商品であるため、価格が比較されない差別化商品。「いかなご」も含め、独自ルートが開発が行われている。



「フジッコ OISSINAシリーズ」1パック 398円

「フジッコ 朝の食べるスープ」1袋 198円

フジッコが開発したチルドの「レディ・ミールシリーズ」。前に比べてアイテムが増えている。トップシールトレーに紙帯をかけた欧米スタイルの包装。商品は真空パックであるため、押されているが味は本格的。

小田急OX



「石井食品 シチュー、カレーシリーズ」1袋 352円

低カロリーを訴求したシチューとカレー。パッケージの表のカロリーが表字されている。健康を気にする人向けの商品。



「ニュージーランド ガーリック マーガリン」 120g 1パック 315円
商品の特徴は「TRANS FAT FREE」（トランス脂肪酸不使用）。
ガーリックバターはよく見かけるが、ガーリックマーガリンは珍しい。ホイップ
タイプであるため扱いやすい。



「テーブルランド 冷凍うどん白ごま坦々麺」「うどんチャンプル仕立て」1パ
ック 238円
今、盛んにテレビコマーシャルされている商品。「新商品はどこよりも早く！」
成城石では、冷凍平ケースで2品売場展開されていた。袋のまま加熱するタイ
プで中のトレーは包装されていない。加熱後、すぐ混ぜ合わせるのがポイント。
新しいうどんの食べ方の提案。

日配の主力商品の最低価格

	ライフ 相模大野駅前店	サンワ 相模大野店	小田急OX 相模大野店
豆腐 1丁	300g 1パック 48円	300g 1パック 48円	200g 1パック 110円
納豆 三段重ね	1パック 88円	1パック 59円	1パック 78円
ゆでうどん 1食	1袋 58円	1袋 39円	1袋 88円
焼きそば 3食	1袋 108円	1袋 99円	1袋 198円
生ちくわ	5本入り 1袋 98円	5本入り 1袋 89円	4本入り 1袋 88円
白菜漬け 袋	300g 1袋 188円	200g 1袋 99円	250g 1袋 198円
牛乳 無調整 1ℓ	1本 168円	1本 158円	1本 188円
プレーンヨーグルト	1パック 105円	1パック 104円	1パック 138円
食パン 6枚入り	1袋 128円	1袋 99円	1袋 128円
卵 6個入り	1パック 159円	1パック 158円	1パック 178円
冷凍うどん 5食	1袋 258円	1袋 298円	1袋 458円